

# “美心” (ちむぐる)



独立行政法人国立病院機構  
**沖縄病院**



〒901-2214  
沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号  
TEL : 098(898)2121  
FAX : 098(898)6434 (地域連携室直通)

2020年5月 No.101 発行地域医療連携室



## 『もう一つの理念』

### ＜すーよー、ちゅーうがなびら。＞

平素は沖縄病院の医療に対するご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

本来なら2020年は東京オリンピックで大いに盛り上がるはずでしたが、中国湖北省で発生した新型コロナウイルス感染症(肺炎)COVID-19は、瞬く間に日本を含む世界に感染拡大(パンデミック)しました。日本においても46都道府県で感染報告がみられ、4月には日本全国に非常事態宣言が出されました。沖縄県においても感染症指定医療機関と協力医療機関が連携して、必死に患者さんの治療にあたっております。すべての医療機関の努力と尽力に頭が下がります。当院も協力医療機関として参加しており、その任に当たるスタッフをはじめ関係する職員すべてに感謝申し上げます。

当院でもCOVID-19への対応を機に職員が一つになって行動してくれていることを日々感じています。今月の院長室だよりは『ゆいまーる』です。沖縄県全体が相互扶助の精神で助け合うことで頑張っているのがよくわかります。

さて、当院は平成27年に沖縄県から**難病医療拠点病院**の指定を受けたのに続いて、令和2年3月には**結核医療中核病院**の指定を受けました。結核はここ数年、著明な減少が続いていましたが、一転して今年は外国人や高齢者の結核を中心に増加しています。結核医療に関しましては、結核の治療はもとより将来の沖縄県の結核医療を担う専門医の育成に力を注いでいます。多くの若手呼吸器内科医が研修に来てくれることを待ち望んでいます。また肺がんセンターも開設して3年目になります。今年、日本呼吸器外科学会から新専門医制度による**専門研修基幹施設**の認定を受けました。沖縄県においては、特に呼吸器外科専門医を目指す若手呼吸器外科医の育成が急がれます。琉球大学や関連施設と協力しながら国内研修や学位取得などの実績を示し、若手呼吸器外科医の育成に力を注ぎます。脳神経内科、緩和医療科においても琉球大学をはじめ多くの研修医・医学生が研修に来ています。研修医・学生の皆さんには必ずや将来の沖縄の医療に貢献してくれることを期待しています。当院のブランドを発信しながら、『人材育成』をもう一つの理念として掲げたいと思います。

令和2年5月吉日

国立病院機構沖縄病院 院長 川畑 勉

#### 基本理念

患者さまの立場を尊重し  
高度で良質の医療を提供します

#### 運営方針

1. 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
2. 患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇
3. 健全な経営基盤の確立
4. 安心して療養に専念できる快適な環境
5. 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実

GINOWAN CITY FM 81.8MHz  
ぎのわんシティFM

毎週月曜日9時30分から当院職員による病気に関する様々な情報をラジオ放送しております。当院HPにも放送内容を掲載していますのでご覧ください。

# 職員紹介



鎌田 哲也 事務部長

4月の人事異動により、事務部長に就任いたしました鎌田と申します。新型コロナウイルス問題のためかどうかはわかりませんが、自動車の輸送業者が見つからず、自宅の佐賀県から

鹿児島新港まで自走フェリーで25時間かけて到着いたしました。船内感染しないだろうかとダイヤモンドプリンセス号に思いを巡らせながらの長旅でした。

当院は結核と難病の拠点病院であるとともに、がん治療にも力を入れており、リニアックの更新を検討中です。さらにグレードの高い機種を導入を目指しておりますので、地域の医療機関におかれましては放射線治療適応患者のご紹介をぜひお願いしたいと存じます。医療機関相互の連携と役割分担により、受診される患者様に、将来にわたって安定的に質の高い医療が提供できるよう、取り組んでいきたいと考えています。

今までの経験を生かし、精一杯の努力をしておりますので、今後ともご指導ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



太田 恵子 看護部長

国立病院機構沖縄病院に看護部長として着任して1年が経過しました。沖縄県各地の位置関係も少しずつ分かるようになり、これから更に地域の皆様との連携を図りたいと思っ

ておりました矢先にこの度のCOVID19感染流行となり対策に追われる年度始めとなりました。未曾有の事態となり全国的に混乱している中でそれぞれの施設の皆様も大変ご苦労されていることと思います。

当院でも、国立病院機構としての使命は勿論、医療人として、患者様への必要な医療と安心できる療養環境の提供、併せて職員の安全を考慮した対応策の検討を重ね、準備を経て日々模索しながら可能な医療提供を継続しております。これまで災害時にはそのつらい思いを乗り越える過程で「人の絆」についてのエピソードを耳にしました。ここまでを振り返っても危険を顧みず業務にあたる医師・看護師をはじめ、周囲でそれを支える職員、応援メッセージを送る職員や地域の皆様など、まさに今回も職員間、施設間、地域、社会で様々な絆が生まれています。地域の医療機関の皆様、厳しい年度初めにはなりましたが、沖縄病院が協力できることがございましたら是非ご連絡ください。施設の枠を超え多くの方々との強い絆を結び、この危機を乗り越えていきたいと願います。沖縄の「ゆいまーる」という言葉通り、一緒に頑張っていきたいと思っておりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



山形 真一 薬剤部長

現代医療は多職種・多人数・多施設によって提供されることから、人/人・組織/組織連携は必然となります。連携すると協働も同時に必要となるのですが、我が国の医療

の歴史的な積み重ねにおいて、この協働が大変に不十分な部分もあります。薬物治療に着目した場合、医師と薬剤師の異なる専門職のダブルチェックによりその使用を管理すると、この30年間で入院治療においては、病棟薬剤業務を拡充させることにより、十分ではないものの、大きく前進してきました。一方、外来においては、医薬分業され分担によって連携していますが、協働の観点からは一部の先駆的な施設・地域を除いて不十分な状況にあります。今回の診療報酬改訂によって、外来での薬物療法に関しての病院-薬局協働のためのドライビングフォースが得られました。沖縄県民の皆様へ、より安心して安全で高品質な薬物治療を提供できるように努めてまいります。医療サービスの向上への努力に加えて、県で不足する薬剤師の育成にも寄与してまいります。当院は薬学生長期実務実習受け入れ施設、2018年より日本医療薬学会の3種の認定・専門薬剤師研修施設となっています。2021年度からは薬局薬剤師を対象とした新しい専門資格の認定が開始されます。大学、薬局、病院と連携・協働し、質の高い薬剤師を育てることも当院の使命として活動してまいります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



島袋 美智代 副看護部長

4月1日付で沖縄病院へ着任しました。2年ぶりに故郷沖縄で働くことになり、大変嬉しく思います。4月初旬は、まだ、肌寒くガウンを羽織っていましたが、やっと、

うりずんの季節を感じ、沖縄に帰ってきことを実感しています。これまで、ハンセン病療養所や精神科病院での勤務が主で、患者様の尊厳を重視した看護、その人の思いに寄り添い、その人が望む生活が送れるよう共に考え、サポートしていく事の重要性を学びました。

沖縄病院は、沖縄県唯一の難病医療拠点病院、結核医療の最終拠点施設であり、筋ジストロフィー病棟やがん専門病棟、緩和ケア病棟など専門的医療、看護を提供している病院で、地域からの期待は、大きいと思います。看護師が「身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面」からアプローチし、その役割を發揮できるよう、支援していきたいと思っております。皆さま、今後ともよろしくお願いいたします。

## 今月のトピックス



外来患者対応



面会禁止のお知らせ



統括診療部長  
感染対策管理室長  
比嘉 太

### 「感染対策について」

沖縄病院の感染対策は、院長をはじめとするメンバーからなる感染対策委員会が主導し、実働部隊としての感染対策管理室が各部署と連携しながら、病院内における様々な感染症の制御を行っています。また、琉球大学附属病院、大浜第一病院、開邦病院、国立病院機構琉球病院など施設の垣根をこえて連携して、病院間の相互チェックや合同カンファランスなどを行い、協力して感染対策を進めています。

新型コロナウイルスによるパンデミックは収束にはまだ至っていません。日本でも緊急事態宣言が発出され、国民全体に大きな痛みを伴う対策が求められています。特に、医療機関では刻々と変化する状況への対応のため、強い緊張が続いています。

今こそ、すべての医療機関間の連携をなお一層強化する必要があると感じています。皆様とともに頑張っ参りたいと存じます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 肺がんセンターの役割について

沖縄県の肺がん診療における診断・治療のさらなる向上をめざし、肺がんに特化した医療機能を推進するために、**2018年3月**に「肺がんセンター」を設立しました。設立以降の当院における肺がん登録数(新規)/手術数(肺がん及び胸部悪性腫瘍)は、**2018年122 / 93件**、**2019年169 / 82件**で、いずれも県内でtopクラスの登録数/手術数でありました。近年、肺がん分野での治療法の進歩はめざましく、化学療法では分子標的治療に加えて免疫チェックポイント阻害薬の登場によりOS(生存率)、PFS(無増悪生存期間)が改善されています。また、手術においても進行肺がんに対する集学的治療・拡大手術で切除率の向上を目指す一方、小型肺がんに対しては根治性と機能温存を目指した縮小手術・区域切除が標準手術としてガイドライン変更になる可能性が出ています。このような治療の進歩に対して、当センターでは各科横断的に連携し[呼吸器外科・呼吸器内科・放射線診断科・放射線治療科(琉球大学放射線科)・病理診断科の専門医でカンサーボードを開催]、治療法をupdateし、肺がんの治癒、生存率向上を目指して治療に取り組んでおります。また、全国と比較して低い放射線治療実施率(沖縄県内における)に対して、放射線治療の適応、実施するタイミングを逸さないように取り組み、生存率および緩和度の向上を図っております。

当院は日本呼吸器外科学会より、沖縄県における呼吸器外科専門医・認定修練施設(基幹施設)に認定されており、沖縄県における肺がん診療の核となる専門施設として、都道府県がん拠点病院(関連施設)・地域がん診療拠点病院(関連施設)を含めた地域の医療機関と連携を図りながら、肺癌治療成績の更なる向上を目指してまいりたいと考えております。



肺がんセンター長  
饒平名 知史 先生

## 地域医療連携がより

### 地域医療医連携室 比嘉 千佳子 係長



令和元年は、地域の医療機関との連携強化を図り、患者とご家族が安心して在宅で過ごすことが出来るよう「医療連携推進登録医制度」(\*)を立ち上げました。現在、23施設の医療機関にご登録して頂く事が出来、大変感謝しております。

また、昨年に引き続き更なる連携強化を目指し、年度初めの各医療機関へのご挨拶を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ病院訪問を見合わせております。再開の折には、宜しくお願い致します。

各医療機関の皆様におかれましても、未曾有の災禍とはいえ病院一丸となって、この難局に立ち向かわれている事と存じます。

(\*)「医療連携推進登録医制度」の詳細と「医療連携推進登録医療機関」については、病院ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。



沖縄病院と連携していただいている医療機関をご紹介します

# ふくやま整形外科

- ◆診療科目 / 整形外科・リハビリテーション科
- ◆所在地 / 宜野湾市長田1丁目28-1
- ◆電話番号 / 098-894-1234
- ◆休診日 / 木曜午後・日・祝・年末年始・旧盆

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 12:00	○	○	○	○	○	○	△
午後 2:00 ~ 6:00	○	○	○	△	○	○	△



ふくやま整形外科は2006年4月に宜野湾市長田に開院しました。当院は整形外科、運動器リハビリテーションを中心に診療を行っております。膝や肩など関節の痛み、首や腰の痛み、手足のケガなど子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方々が来院されています。

リハビリテーションは3人の理学療法士が常勤し、患者さんそれぞれの疾患に応じた運動療法を行っています。

また骨密度検査は腰椎・大腿骨用測定装置を導入し、骨粗鬆症の早期発見、治療にも力を入れ、寝たきりの原因になる骨粗鬆症による骨折の予防に努めています。

高度な検査や手術、入院が必要な方は他の専門医療機関とも連携し、受診された方にいちばんあった治療が受けられるように心がけています。沖縄病院には放射線科、脳神経内科など専門性の高い分野について大変お世話になっております。

これからもスタッフとともに、地域に必要とされるクリニックを目指していきたくと思います。



沖縄病院と連携していただいている医療機関をご紹介します

# 歯科口腔外科クリニック

- ◆診療科目 / 歯科・歯科口腔外科
- ◆所在地 / 名護市城1丁目1-19
- ◆電話番号 / 0980-52-2155
- ◆休診日 / 第2・4・5土曜日、日曜日、祝日

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	9:00~13:30	9:00~13:00	9:00~13:30	9:00~13:00	9:00~13:00	9:00~12:00	△
午後	15:30~19:00	14:30~18:00	15:30~19:00	14:30~18:00	14:30~18:00	△	△



名護市で歯科口腔外科クリニックを開業しています金城です。昨年10月に登録医療機関として登録させて頂きました。当院では一般的な歯科治療の他、がん治療における口腔機能管理に取り組んでいます。このような取り組みは平成24年診療報酬改定で医科歯科連携(がん患者の口腔ケア)の重要性、必要性が認められ保険収載されました。実際に歯科の介入が行われている医療機関では術後の誤嚥性肺炎の減少、入院期間の短縮などに寄与するとの結果が示されています。

その後も連携の推進を図るため適応疾患の拡大(心臓血管手術、臓器移植手術、人工股関節置換術、脳卒中に対する手術)や緩和ケアを行っている患者への適応へと広がってきました。

平成30年改定では化学療法における口腔粘膜炎に対して、創傷被覆・保護材(エピシル®)が保険適応となり食事の摂取に影響を及ぼすGr2以上の粘膜炎に奏効しています。

集学的がん治療のなかで、口腔ケアが少しでもお役にたてればと考えています。微力ではございますが今後ともよろしくお願いいたします。

